

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
<p>学習・生活集団力を高め、学び合う心豊かな子どもの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 考える子 (創造性豊かに考える子) ○ 助け合う子 (相手を尊重し助け合う子) ○ やりぬく子 (最後までやりぬく子) 	<p>～特別支援教育の考え方を基盤にして～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 確かな学力の育成を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎的な学力の向上に努める。 ○ 表現力を高め、学びあう力の育成に努める。 2 人権感覚豊かな人間関係づくりを推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 集団生活のルールやマナーを身につけ、安心感のある学校生活を推進する。 ○ いじめ等の不合理的に気づき、違いを認め合い、ともに解決しようとする子どもを育てる。 3 特別支援教育の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の発達理解ときめ細かな支援を充実させる。 4 連携を進める。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 保・幼・小の滑らかな接続を目指す。 ○ 中学校ブロックで学力向上や生徒指導等に取り組む。 ○ ふるさと教育を推進する。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語について <ul style="list-style-type: none"> Aは全国・県と比べてやや下回っているが、Bは全国をやや上回っている。 領域別ではA・Bとも「読むこと」が全国に対して大きく下回っているが、「書くこと」はBについては大きく上回っている。 ・算数について <ul style="list-style-type: none"> Aは全国をやや上回っているが、Bは下回っている。 領域別ではAでは「量と測定」、Bでは「図形」や「数量関係」が大きく下回っている。 <p>県</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年について <ul style="list-style-type: none"> 全国・県と比べて国語・算数ともに下回っているが、ほぼ目標値と同じである。算数は活用の表現力が弱い。 ・4年について <ul style="list-style-type: none"> 国語・算数ともに目標値より大きく下回っている。基礎的な問題でその傾向は顕著である。 ・5年について <ul style="list-style-type: none"> 国語・算数ともにほぼ県平均と同じである。国語については活用の問題では目標値を大きく上回っている。算数は思考・判断力に課題がある。 	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>全国</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平日のテレビ等の視聴時間については1日当たり3時間以上視聴する児童の割合が全国・県に比べ大きく下回っている。 ・平日の家庭学習の時間は、1日あたり1時間以上行っている児童の割合がほぼ県の割合と同じで全国より5ポイント近く高い。また、全くしない児童はいない。 ・読書時間については、全くしない児童の割合は全国・県とほぼ同じであるが、1日当たり30分以上行う児童の割合は少ない。 ・「自分には、良いところがあると思いますか。」の質問に対して肯定的な回答が全国・県に対して大幅に低い。 ・地域行事やボランティア活動に参加している児童の割合が高い。 <p>県</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分には、良いところがあると思う。」の質問に対して肯定的な回答が県に対して大幅に低い。 ・1日の学習時間が1時間以上の児童は県に対して大幅に少ない。 ・将来の夢や目標を持っている児童の割合は少ない。

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・たしかめテストの結果と比較し、6年生は基礎基本の部分では力をつけている。放課後補充学習や朝自習等で問題データベースを活用し基礎基本問題を繰り返し行ったためと考えられる。 ・漢字の読みや書き取りについては多少の差はあるが、おおむねできている。 ・6年生については昨年、中学校の定期考査に合わせてノーメディア(家庭学習)週間を年5回実施したところ、平日のテレビ等の視聴時間が減少し、家庭学習の時間が延びた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の内容が読み取れず、文章を要約したりまとめたりする力が弱い。また、必要な情報を取り出して、図や表・式に表す力が弱い。 ・俳句やことわざについて、日常的に触れておらず、鑑賞や適切な使い方について理解できていない。 ・条件(文字数やキーワード)に合わせた回答に慣れておらず、まとめることが苦手である。 ・素直で従順なところは学習状況調査から見えるが、自分で進んで行ったり主体的に行ったりする気持ちがうすい。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
引き続き授業改善を行い、話し合い活動の充実や表現力の向上を目指す。	年度内	すべての教科領域で深まりのある話し合い活動を意図的に行う。	校内研修で全員公開授業を行い、目指すべき授業について検証していく。	担任は国語科で、専科は担当教科で公開授業を行っている。12月現在、8割の教員で実施済みで、3学期には全員の公開授業が終了予定。	B	1月中には常勤講師以上の教員の公開授業が行われ、本校の目指すべき授業について研修でき、相互の授業改善に向けて取り組むことができた。	A	次年度も引き続き国語科を中心に授業改善を行い、話し合い活動の充実や表現力の向上を目指す。また、次年度は外部講師を招聘した研究授業を数回行い、教員の指導力をより向上させたい。
言語環境を整える。	年度内	季節ごと	各教員の得意分野を生かし、覚えたい俳句やことわざ、各教科の基礎的な事項などを掲示して、児童の知的好奇心を刺激する。	校長が全校朝の会の話を視覚化し、教頭が「言葉の泉」、教務が「理科の窓」で言葉や自然・科学に関する掲示を行っている。	A	専科専任団を中心に児童の知的的好奇心を刺激する掲示や児童による慣用句の掲示や放送を行うことができた。	A	次年度も引き続き専科専任団を中心に言語環境を整え、視覚的にも児童の基礎基本の定着を図りたい。
基礎基本の徹底	年度内	全国・県学力調査の基礎基本問題で、全国平均以上を目指す。	問題データベースを活用し、日々の授業の復習や宿題、補充学習に積極的に取り入れる。全校で漢字検定に挑戦すべく、漢字学習に取り組む。	問題データベースを活用し漢字学習に取り組んでいる。2/9には校内で漢字検定を実施し、250名近くの児童・保護者が受験する。また、3学期には5年生を対象に指導教諭が週末課題を出す予定である。	A	漢字検定合格率が93%を超え、漢字の基礎基本について学習していく土壌を作ることができた。また、指導教諭による週末課題「Tチャレ」を9回実施できた。	A	次年度は朝のモジュール学習を3年生以上で導入し、国語科の漢字や音読、言語事項を中心に効果的、効率的な指導を行う。また、漢字検定に向けた取組も引き続き行う。放課後補充学習も全教員で行う。

※達成度 「S: 目標を多きく上回った(100%超)」 「A: 目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B: 目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C: 目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D: 目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E: 目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区で校長や教頭、教務主任、生徒指導主事、養護教諭、事務などで定期的に部会を持ち共通理解を図り課題を共有し、情報交換を行う。 ・引き続き中学校区で行うノーメディアや家庭学習促進の取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習について懇談等で保護者に説明したり、児童により例を紹介したりして、土日の学習時間を増やす。